

練成問題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

婦人が手にとらないのを遠慮だと解釈した先生は、このときちょうど、紅茶碗を口へ持っていきこうとしていた。* なまじいに、くどく、すすめるよりは、自分ですすってみせるほうがいいと思ったからである。ところが、まだ茶碗が、やわらかな口ひげにとどかないうちに、① 婦人の語は、突然、先生の耳をおびやかした。茶を飲んだものだろうか、飲まないものだろうか。

——こうした思案が、青年の死とは、まったく独立して、一瞬の間、先生的心をわずらわした。が、いつまでも、持ちあげた茶碗を、かたづけずにおくわけにはいかない。そこで先生は思いきって、がぶりと半碗の茶を飲むと、心持ち眉をひそめながら、むせるような声で、「そりゃあ」と言った。

——……病院におりました間も、よく② あれがおうわさなどいたしたものでございますから、おいそがしかろうとはぞんじましたが、お知らせかたがた、お礼を申しあげようと思ひまして……

——いや、どうしまして。

先生は、茶碗を下へおいて、そのかわりに青い蠟をひいた団扇をとりあげながら、* 惘然として、こう言った。

——とうとう、いけませんでしたかなあ。ちようど、これからという年だったのですが……私はまた、病院のほうへもご無沙汰していたものですか、もうたいてい、よくなられたことだとばかり、思っていました——③ すると、いつになりますかな、なくなられたのは。

——昨日が、ちようど初七日でございます。

——やはり病院のほうで……

——さようでございます。

20

15

10

5

——いや、実際、意外でした。

——なにしろ、手のつくせるだけは、つくしたうえなのでございますから、あきらめるよりほかは、ございませんが、それでも、④ あれまでにいたしてみますと、なにかにつけて、愚痴がでていけませんものでございます。

こんな対話を交換しているあいだに、先生は、意外な事実気がついた。

それは、この婦人の態度なり、* 挙措なりが、少しも自分の息子の死を、語っているらしくないということである。目には、涙もたまっていない。声も、平生のとおりである。そのうえ、口角には、微笑さえ浮かんでいる。これ、話を聞かずに、外見だけ見ているとしたら、だれでも、この婦人は、* 家常茶飯事を語っているとしか、思わなかったのに相違ない。——先生には、これが不思議であった。

が、⑤ 第一の発見のあとには、まもなく、⑥ 第二の発見がついで起こった。ちようど、主客の話題が、なくなった青年の追懐から、その日常生活の* デイテイルにおよんで、さらにまた、もとの追懐へもどろうとしていたときである。なにかの拍子で、団扇が、先生の手をすべって、ぱたりと寄木の床の上に落ちた。会話はむろん寸刻の断続をゆるさないほど、切迫しているわけではない。そこで、先生は、半身を椅子から前へのりだしながら、下をむいて、床のほうへ手をのばした。団扇は、小さなテーブルの下に——上靴にかくれた婦人の白たびのそばに落ちている。

そのとき、先生の目には、偶然、婦人のひざが見えた。ひざの上には手巾を持った手が、のっている。もちろんこのことは、発見でもなんでもない。が、同時に、先生は、婦人の手が、はげしく、ふるえているのに気がついた。ふるえながら、それが感情の激動を強いておさえようとするせいか、ひざの上の手巾を、両手で裂かないばかりにかたく、にぎっているのに気がついた。そうして、最後にしわくちやになった絹の手巾が、しなやかな指のあいだで、さながら微風にでもふかかっているように、ぬいどりのある縁を動かしているのに気がついた。——婦人は、顔でこそ笑っていたが、じつはさつきから、

45

40

35

30

全身で泣いていたのである。

団扇をひろって、顔をあげたときに、先生の顔には、今までにない表情があった。見てはならないものを見たという^{*けいけん}敬虔な心もちと、そういう心もちの意識からくるある満足とが、多少の芝居^{しばい}気で誇張されたような、はなはだ、複雑な表情である。

——いや、ご心痛は、私のような子供のいない者にも、よくわかります。

先生は^⑦まぶしいものでも見るように、やや、大仰に、首を反らせながら、低い感情のこもった声でこう言った。

〈芥川龍之介「手巾」より〉

(注) なまじいに気がすすまなかったり、不可能だと思ったりしながらも、つとめて無理にする様子。

惘然[〓]意外なできごとに驚いてぼう然とする様子。また、失望したり、

どうしようもなかったりしてぼんやりする様子。

挙措[〓]たちいふるまい。起居動作。

家常茶飯事[〓]日常茶飯事と同じ意味。追懐[〓]追憶。追想。

ディテイル[〓]詳細。敬虔[〓]うやまいつつしむこと。

□(1) ——線①「婦人の語は、突然、先生の耳をおびやかした」とありますが、「婦人」のことばの内容はどんなことですか。それが明確に書かれている部分を、本文中から七字で書き抜いて答えなさい。

□(2) ——線②「あれ」が指している内容を、本文中から五字で書き抜いて答えなさい。

□(3) ——線③「すると、いつになりますかな、なくなられたのは」の部分に用いられている表現技法を書いて答えなさい。

□(4) ——線④「あれまでにいたしてみます」とありますが、これはどんな意味ですか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア あれだけ先生のおうわさなどをうかがっていますと

イ 初七日まで、すっかり済んでしまいますと

ウ あれだけ成長するまで、育て上げてしまっただけですと

エ いっしょうけんめい手を尽くして看病してみますと

□(5) ——線⑤「第一の発見」とありますが、どんなことを発見したのですか。「婦人」「息子」「微笑」ということばを必ず用いて、「〜こと。」という形で、三十文字以内(句読点も字数に数えます)で答えなさい。

こと。
こと。

□(6) ——線⑥「第二の発見」とありますが、その発見したことをまとめると、結局、婦人のどんな動作・様子を意味していたのですか。それを表した八字のことばを、「〜ということ」につながるように、本文中から書き抜いて答えなさい。

ということ

□(7) ——線⑦「まぶしいものでも見るように」とありますが、先生がそのよな目で見たのはなぜですか。次から最も適切な理由を選び、記号で答えなさい。

ア 婦人の美しい容貌に感動したから。

イ 婦人のゆたかな微笑に心が和んだから。

ウ 婦人の非人間的な態度に恐怖を覚えたから。

エ 婦人の、気持ちの態度への表し方に感動したから。

□

9

古典

学習の要点

歴史的かなづかい

- ・「ゐ」↓「い」 (例)ゐたり (例)ゐる
- ・「ぢ」↓「じ」 (例)ぢふぢ (例)よるぢ
- ・「を」↓「お」 (例)をとこ (例)やむことなし
- ・「くわ」↓「か」 (例)くわじ (例)ぐわ↓「が」(例)ぐわんじつ
- ・「ア段十う(au)」↓「オ段十う(o)」 (例)あふさか
- ・「イ段十う(i)」↓「イ段十ゆ十う(yu)」 (例)あやしう
- ・「エ段十う(eu)」↓「イ段十よ十う(yo)」 (例)あふてふ
- ・「は・ひ・ふ・へ・ほ」↓「わ・い・う・え・お」 (例)あへていはく・問ふ・よそほひ・いひける

係り結びの法則

係り助詞	働き	結びの形	例
ぞ・なむ	強意	連体形	もと光る竹なむ一筋ありける
や・か	疑問・反語	連体形	野守は見えずや君が袖振る
こそ	強意	已然形	しばしとてこそ立ちどまりつれ

文語表現の特徴

省略が多い。

①助詞の省略(例)いはり(が)あり

(例)炭(を)もてわたる

②述語の省略(例)夏は夜(がよい)

③主語の省略

四季の区別と月(陰暦)の名称

春	1月 睦月	2月 如月	3月 弥生
夏	4月 卯月	5月 皐月	6月 水無月
秋	7月 文月	8月 葉月	9月 長月
冬	10月 神無月	11月 霜月	12月 師走

確認問題

① 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

① 秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど、飛びいそぐさへ ^② あはれなり。まいて雁などのつらねたるが、いと ^③ ちひさく ^④ 見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音など * はないふべきにあらず。
〔枕草子〕より

(注) はないふべきにあらず Ⅱ また改めて言うまでもない。

① — 線③ 「ちひさく」を現代仮名遣いに書き直して答えなさい。

② — 線① 「秋は夕暮れ」のあとにはどんな意味のことばが省略されていますか。次から最も適切なものを選び、記号で答えなさい。

ア くを思う。 イ くがよい。

ウ くのような。 エ く当たる。

③ — 線② 「あはれなり」と意味の似ている三字のことばを、本文中から書き抜いて答えなさい。

④ — 線④ 「見ゆるは」を、十字以内で口語に直して答えなさい。

⑤ 「枕草子」の作者を漢字四字で書いて答えなさい。

2 次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

人のただ一言ただ一わざによりてその人のすべての善き悪きを定め言ふは漢書の常なれども、^①これいと当たらぬことなり。すべて、善き人といへどもまれには^②ことわりになかなはぬしわざも交じらざるにあらざる。あしき人といへども善きしわざも交じるものにて、^③生けるかぎりのしわざことごとくに善き悪き一方に定まれる人は^{*}をさをさ無きものなるを、いかでかただ一言一わざによりて定むべき。^④人の生まれつきさまさまあるものなり。物の道理、事の利害など、すべてよろづのことを心にはよく思ひわきまへながら、口には^{*}え言はぬ人もあり。また、口にはよく言へども、^{*}しか行ふことはえせぬ人もあり。また、口にはえ言はねども、よく行ふ人もあり。また、口にはよく言へども、文にはよく書きいづる人もあるなり。また、口にはえ言はねども、文にはよく書きいづる人もあるなり。

〔本居宣長「玉勝間」より〕

〔注〕漢書＝中国の書籍。漢文の書物。

をさをさ＝あまり。容易にめつたに。

え言はぬ人＝うまく言えない人。「え＋打ち消しの語」は「くする」とができる。「の意になる。」

しか＝そう。そのとおり。

□(1) — 線A「よろづ」、線B「思ひわきまへ」を、それぞれ現代仮名遣いに直し、すべてひらがなで書いて答えなさい。

A	B
---	---

□(2) — 線①「これいと当たらぬことなり」について、次のそれぞれの問いに答えなさい。

□①「これ」が指している内容を、現代語に直し、「一つの言動」という

とばを必ず用いて、「くこと。」という形で、三十五字以内（句読点も字数に数えます）で答えなさい。

こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ
こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ	こ

□②「これいと当たらぬことなり」よりもあとの本文を、内容の上から二つの部分に分けた場合、後半部分はどこから始まりますか。後半の部分の最初の一文の初めの五字を書き抜いて答えなさい。

こ	こ	こ	こ	こ
---	---	---	---	---

□③ — 線②「ことわりになかなはぬしわざ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア 本人の弁解しようもないような失敗。
- イ 説明ができないような不思議な行動。
- ウ ひどが断り切れないような無理難題。
- エ 物の道理に合わないまちがった行為。

こ

□④ — 線③「生けるかぎりのしわざ」の意味として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア あらゆる生きものの行い。
- イ 晩年になってからの行い。
- ウ 一生の間のすべての行い。
- エ 精一杯生きるための行い。

こ

□⑤ — 線④「べき」は通常、文末にあるときは「べし」と終止形になるはずですが、このような形で結ばれているのは、どの係りの助詞のためですか。本文中からその助詞を書き抜いて答えなさい。

こ
